

東雲夢通信

東雲中学校校長室通信

文責 校長 渡邊 和彦

平成三十年五月一日発行第三号

犬猫殺処分ゼロへ

保健所などに引き取られた、犬猫の殺処分が問題になり、よくニュースや政治家の取り組みなどとして話題になります。我が家にも二匹の犬がおり一匹は、ミカン畑で産み落とされていた子犬を頂いたもので、二匹目は私が市内中心部の中学で、教頭として働いていたときに、生徒が捨て犬を保護してきて、関係各機関、インターネッツト、ポスター方々手を尽くしたあげく、飼い主が見つからず、私が飼うこととなった犬です。

春先のこの季節、私は憂鬱になります。狂犬病、フィラリア予防、混合ワクチンの接種などと、ものすごくお金がかかるからです。毎日のえさ代もかなりの負担です。一頭目はミックス犬であり大型なので、いろいろなリスクも考え避妊手術を行いました。十万円以上かかったと思います。命を預かるのは安くないということです。

殺処分を減らすにはどうすれば良いか？考えてみて欲しいと思います。里親を探す、安易にペットショップで販売するのを制限する（イギリスではペッ

トショップでの販売は一般的ではないそうです）捨てる人に罰則を：あるいは厳罰に処する。等々

里親、飼い主に対する取り組みはどうでしょうか？保護した犬猫を引き取つたら、餌や維持費を補助する、無料にする：等々。その事で問題は起こらないでしょうか？「誰かが補助を受けて引き取ってくれるのだから：」と簡単に犬猫を手放す人が増えたり：命のやりとり：と言う言葉もあります。医療や救命救急、災害の時に使われますが：ペットの小さな命。考えて見て下さい。

育てるか？罰を与えるか？

先日、テレビの番組が、罪を犯した人が入れられる、刑務所を扱っていました。ノルウェーの刑務所とアメリカの刑務所を比較して番組は進められていきます。ノルウェーでは受刑者と看守が一對一の平等な人間どうしとして接し、対話しながら社会復帰に向けてカウンセリングしていきます。社会に出た後、即戦力になる高度な職業訓練を受け、個に応じた自由で豊かな食事が与えられます。

アメリカでは狭い檻の中に入れられ、食事は制限され、仕事は刑務所の中の必要な物品を作成、補充するための下請的な作業のみ、規則に従わなければ懲罰房というさらに環境の悪いところに長期間閉じ込められると。番組では結果が先に示されていた



んですが：再犯率。すなわち、再び罪を犯して、刑務所に戻ってくる人が多いのはどちらか？

圧倒的にアメリカなのだそう。さて、ここで問題：であるなら、どの国もノルウェー方式を採用すれば良いのじやないか？って事になります。はたして、どうでしょうか：凶悪犯なのです。加害者です。加害者がいれば被害者がいます。被害者の感情は？刑務所の運営は基本的に公費です。税金です。

場所取りって何だよ？



これもテレビの番組で：ある鉄道のローカル線で、各駅から乗り込む敬老会のご老人達が、携帯電話などで申し合わせて、始発駅から乗り込む人が今後乗る予定の人の分まで、物を置くなどして座席を確保し、それを「間違っている」と考えた他の乗客がネットやマスメディアに投稿した：

ガラガラローカル線です。他にも空いている席があります。お年寄りはいずれにしても優遇されるべきです。このような方々が、使ってくれるからこそ、地方のローカル線は維持されます。自動車の免許も返納された方々かも知れませんが：他方：悪いことは悪い、中には注意されて逆ギレした老人もいる。それとこれとは別問題：

※今年度東雲中は道徳の時間に力を入れますので：話題を提供してみました。